

教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充 を求める請願書

提出 令和3年8月20日

志摩市議会議長 濱口 三代和 様

紹介議員 小河光昭

請願者

〒517-0209
志摩市磯部町恵利原1300
磯部中学校 PTA
志摩市PTA連合会 会長

山路 浩一



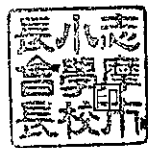
〒517-0505
志摩市阿児町甲賀2088-1
東海中学校 校長
志摩市中学校長会 会長

山口泰弘



〒517-0603
志摩市大王町波切877-3
大王小学校 校長
志摩市小学校長会 会長

前田信義



〒517-0501
志摩市阿児町鶴方3179
三重県教職員組合志摩支部
支部長

里中 洋典



請願の趣旨

子どもたちの「豊かな学び」の保障にむけ、教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算の拡充をおこなうよう採択いただき、国の関係機関に意見書を提出いただくようお願い申し上げます。

請願の理由

2021年4月、国の学級編制の標準が40年ぶりに引き下げられ、小学校35人学級が決定されました。今年度においては、小学校2年生までの35人学級が実現しましたが、その中身は加配定数を振り替える形でおこなわれており、法案審議でも「必要な加配定数は財源とするべきではない」との声も多くあります。また、個々の教育課題に応じるための加配ができにくくなるという可能性もあります。今後5年間で2年生から順次引き下げるとしてはいますが、中学校や高等学校等については、現時点においては、学級編制の標準の引き下げはありません。国際的な比較においても、日本の1クラス当たりの児童生徒数は、2020年 経済協力開発機構(OECD)公表値では、小学校27人(OECD加盟国平均21人)、中学校32人(同23人)とどちらも平均を大きく上回っている状況であり、志摩市においても30人以上の学級が、小学校18クラス・中学校18クラスあります。特に今日、新型コロナウイルス感染症への対策としても、30人以下学級の実現が求められています。子どもたちが安心・安全に学べるようにするためにも、30人以下学級の実現を目指したさらなる学級編制の標準の引き下げと、基礎定数と加配定数をともに改善する新たな教職員定数改善計画の策定と実施が強く望まれます。

また、教育の今日的課題の複雑化・多様化による学校現場の業務量は増加の一方であり、「学校における働き方改革」が叫ばれるなか、人的配置をはじめとする財政措置は、未だ不十分であると言わざるをえません。Society5.0時代の到来や子どもたちの多様化が一層進展するといった状況の中で、安全・安心な教育環境の下、子ども一人ひとりの教育的ニーズや保護者・地域などの願いに応じたきめ細やかな指導・支援をおこなうための人的配置をすすめることは、「志摩市教育推進計画[第2期]」の基本目標をかなえるためにも不可欠な要素です。教職員の質の向上と数の確保は、子どもたちの豊かな学びを保障するための大事な教育環境といえます。人的配置を含めた教育予算の拡充と教育条件の整備をすすめていくことが、山積する教育課題の解決へとつながり、そして、子どもたち一人ひとりの「豊かな学び」を保障することになると考えます。

以上のような理由から、教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算の拡充を強く切望するものです。